

金屋小だより

ながるるごとき自彊もて

令和8年4月15日

NO. 1

TEL 62-2050

雄々しさをこそ持つべけれ

金屋小学校長 平山 裕也

新1年生15名の入学に間に合わせるように、例年よりも早く咲き始めた校庭の桜が、美しく咲き誇っています。夜には美しくライトアップされた姿で、さらに私たちの目を楽しませてくれています。

令和8年度は、全校児童78名でのスタートとなりました。保護者、地域の皆様には、金屋小学校の教育活動へのこれまでと変わらないご支援、ご協力をお願いいたします。

この1年全校朝会や節目の式で、校歌を聞いてきました。児童の歌声もいつも美しく感心するのですが、校歌の歌詞もとても素敵で楽しみにしています。昨年4月の学校だよりで校歌2番に歌われている「自彊」について勝手な考察を載せましたが、1番についても思いを書きたいと思います。

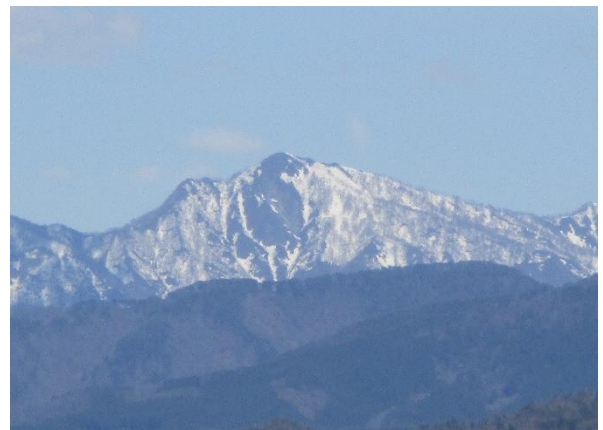
校歌1番

「はるかに望む飯豊山 近くに仰ぐ越後富士
心は常に高山の 雄々しさをこそ持つべけれ」

私は大学時代を山形市で過ごし、登山をするサークルに所属していたので山形県周辺の蔵王山地、朝日山地、吾妻山地、月山、鳥海山などに登っていました。飯豊山もその中の一つに含まれます。飯豊山は新潟・山形・福島の県境にまたがっています。標高が2000mを超えるので、当時登った山の中ではかなり体力の必要な山でした。山小屋に泊まり翌朝見た、朝焼けの新潟平野と日本海の美しさに感動したことをよく覚えています。歌詞に私の大好きな山が入っていてとてもうれしく思っています。

気になっていたのは越後富士です。越後富士と呼ばれることのある山でポピュラーなのは妙高山ですが、金屋から「近くに仰げる」わけはありません。光兎山？まさか高坪山？と考えを巡らせていました。ある時、古い資料から校歌の越後富士が鷲ヶ巣山であるという記述を見つけました。私は小学生のころ一度だけ、健民少年団の行事で登ったことがあります。子どもだった私にとっては、過酷な道のりだったことを覚えています。

確かに空気が澄んでよく晴れた日にはどちらの山も金屋小学校からよく見ることができます。「これらの高い山のように金屋小学校の児童の心が、常に力強く、勇ましく、堂々としたものであってほしい。」との願いが込められているのだと思い、より校歌が好きになりました。



屋上からの鷲ヶ巣山